

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成29年1月12日(2017.1.12)

【公表番号】特表2013-509360(P2013-509360A)

【公表日】平成25年3月14日(2013.3.14)

【年通号数】公開・登録公報2013-013

【出願番号】特願2012-535616(P2012-535616)

【国際特許分類】

C 0 7 D 305/14 (2006.01)

A 6 1 K 31/337 (2006.01)

A 6 1 K 47/50 (2017.01)

A 6 1 K 47/28 (2006.01)

A 6 1 K 47/02 (2006.01)

A 6 1 K 47/22 (2006.01)

A 6 1 K 47/18 (2006.01)

A 6 1 K 9/107 (2006.01)

A 6 1 K 9/127 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

C 0 7 J 9/00 (2006.01)

【F I】

C 0 7 D 305/14 C S P

A 6 1 K 31/337

A 6 1 K 47/48

A 6 1 K 47/28

A 6 1 K 47/02

A 6 1 K 47/22

A 6 1 K 47/18

A 6 1 K 9/107

A 6 1 K 9/127

A 6 1 P 35/00

C 0 7 J 9/00

【誤訳訂正書】

【提出日】平成28年11月24日(2016.11.24)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0018

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0018】

本発明では前述のタクソール/ステロイド化合物は、そのステロイドリボソーム材料が天然ステロイド物質や派生物の中で少なくとも1種である。

前述の天然ステロイドは、コレステロール、7-デヒドロコレステロール(別名7-脱水素コレステロール)、ラノステロール、シトステロール、スチグマステロール、マイケルステロール、エルゴステロール、ブラシカステロール、真菌ステロイド、イタボガキ属ステロールの中から選択する。前述のステロイド派生物がコ-ル酸、デオキシコ-ル酸とチエノ-オキシコ-ル酸から選択する。優先選択したステロイド材料がステロイド、7-デヒドロコレステロールとエルゴステロールで、さらにステロールとエルゴステロールを優先選択する。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0045

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0045】

実施例12 タクソール/7-デヒドロコレステロール化合物

タクソール5gを取り、0.55gの7-デヒドロコレステロールをその中に入れ、回転蒸発器の中に置いて、500mlのアセトンをその中に入れて溶解し、45℃温度の条件の下で1時間で攪拌する、回転蒸発器の中に移す、回転蒸発法によって溶剤を取り除く、65℃減圧と真空乾燥15時間によって得ることができる。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0046

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0046】

実施例13 タクソール/7-デヒドロコレステロール

タクソール5gを取り、4.85gの7-デヒドロコレステロールをその中に入れ、回転蒸発器の中に置いて、500mlのアセトンをその中に入れて溶解し、45℃温度の条件の下で1時間で攪拌する、回転蒸発器の中に移す、回転蒸発法によって溶剤を取り除く、65℃減圧と真空乾燥15時間によって得ることができる。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0047

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0047】

実施例14 タクソール/7-デヒドロコレステロール

タクソール5gを取り、9.70gの7-デヒドロコレステロールをその中に入れ、回転蒸発器の中に置いて、500mlのアセトンをその中に入れて溶解し、45℃温度の条件の下で1時間で攪拌する、回転蒸発器の中に移す、回転蒸発法によって溶剤を取り除く、65℃減圧と真空乾燥15時間によって得ることができる。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0109

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0109】

[処方構成]

成分	サブマイクロエマルジョン剤29	サブマイクロエマルジョン剤30	サブマイクロエマルジョン剤31	サブマイクロエマルジョン剤32
参照比較化合物1*	655mg	/	/	/
参照比較化合物2*	/	1023mg	/	/
参照比較化合物3*	/	/	1100mg	/
参照比較化合物4*	/	/	/	4024mg
卵黄レシチン	3g	3g	3g	3g
ポロキサマー188	3g	3g	3g	3g
グリセロール	5g	5g	5g	5g
大豆油	40ml	40ml	50ml	50ml
注射水を加える	200ml	200ml	200ml	200ml
総量	200ml	200ml	200ml	200ml

*参照比較化合物1、2は、それぞれテスト作製例1項の中で作製して得ることによってタクソール/リン脂質の重量比1 : 5.55と1 : 9.23の2組参照比較化合物である。

*参照比較化合物3、4は、それぞれテスト作製例1項の中で作製して得ることによってタクソール/コレステロールの重量比1:4.50と1:9.06の2組参照比較化合物である。

【誤訳訂正 6】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

タクソールとステロイドとが複合してなるタクソール/ステロイド複合体であって、タクソールとステロイドのモル比は、1 : 0.25 ~ 2であることを特徴とするタクソール/ステロイド複合体。

【請求項 2】

タクソールとステロイドのモル比が 1 : 0.33 ~ 1 であることを特徴とする請求項 1 に記載のタクソール/ステロイド化合物。

【請求項 3】

前述のステロイドがコレステロール、7-デヒドロコレステロール、ラノステロール、シトステロール、ブラシカステロール、スチグマステロール、エルゴステロール、コール酸、デオキシコール酸、チエノードオキシコール酸の中から少なくとも一種であることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載のタクソール/ステロイド複合体。

【請求項 4】

請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項に記載のタクソール/ステロイド複合体、および抗酸化安

定剤が含まれていることを特徴とする組成物。

【請求項 5】

前述の抗酸化安定剤として、亜硫酸水素ナトリウム、ピロ亜硫酸ナトリウム、ビタミン C、E D T A とその塩、ビタミン E とその派生物の中から少なくとも一種を選択することを特徴とする 請求項 4 に記載の組成物。

【請求項 6】

次の工程を含むことを特徴とする請求項 1 ～ 5 のいずれか 1 項 に記載のタクソール／ステロイド複合体の作製方法。

工程 a. タクソールとステロイドとを混合し、適量の有機溶剤を加入して溶解する。

工程 b. 適当の温度の条件の下で攪はんして、有機溶剤を取り除いて、真空乾燥してそれを得る。

【請求項 7】

前記工程 a. において、タクソールとステロイドとを、それぞれ 別種の 有機溶剤に溶解させた後、それを混合させることを特徴とする請求項 6 に記載のタクソール／ステロイド複合体の作製方法。

【請求項 8】

前述の有機溶剤は、ジクロロメタン、エタノール、メタノール、ベンジルアルコール、アセトン、酢酸エチル、テトラヒドロフラン、三級ブタノールの中から少なくとも 1 種類以上選択されることを特徴とする請求項 6 または 7 に記載のタクソール／ステロイド複合体の作製方法。

【請求項 9】

前述の有機溶剤は、エタノール、アセトン、酢酸エチルとテトラヒドロフランの中から少なくとも 1 種類以上選択されることを特徴とする 6 または 7 に記載のタクソール／ステロイド複合体の作製方法。

【請求項 10】

請求項 1 ～ 5 のいずれか 1 項に記載のタクソール／ステロイド複合体の水中油型サブマイクロエマルション剤、ドライエマルション剤、セルフマイクロエマルションシステムや経口製剤を作成するための応用。